

# 2007年度

すぎやましげゆき  
理事長：杉山茂之



01

理事長としても最も重視された点をお教え下さい。

価値観や共通言語、背負ってきた歴史も異なる3 LOM（清水・旧静岡・駿河の各JC）が統合するという大変さを強く感じました。衝突もありましたが、とにかく静岡JCを1つにするという事を重視して、ゼロベースで作っていかうという合言葉で活動しました。また、鈴木初代理事長と2年がかりで作っていかうと話をしていました。

02

スローガン、基本方針を掲げた想いやそのプロセスをお聞かせください。

スローガンについてはみんなで作り上げました。基本方針や理念については自身の人生観や哲学、理念がベースとなっています。確かに時代と共に何をやるべきかはそれぞれの状況によって異なりますが、青年会議所としての理念もありますが、最終的には自身の想いを中心に基本方針を作っていました。

03

JCで学んだことの中で最も大切だと思うことはなんですか？

企業経営においては、いかに組織を最大限に使うって効率良く効果的に成果に繋げるかが大事ですが、青年会議所活動においては、目的、目標、成果という事を超える次元のもっと大きな成果を結果として得られることを理事長を通して気付きました。つまり、企業経営は意味が無ければなかなか動かせませんが、JCは一見すると意味が無いような事に一生懸命全力で動くことで人間として成長できたり、仲間との絆が深まったり、自分だけでは気付けない大きな事に気付くことができるのではないのでしょうか。効率とは逆行していますが、自分の利益で動いてもJCは意味が無いと思います。

04

1年間、理事長をやり一番嬉しかったことを教えてください。

理事長は全ての事業に関わっていくことになります。理事長が出した方針に沿ってそれぞれの委員会が活動していく中で、理事長の思い描いた以上に大きな事業を達成させることができました。そのプロセスの中で、一生懸命汗を流している姿を見ることが非常に嬉しく思いました。

05

今のJCと当時のJCの違いがあったら教えてください。

今のJCはあまり良く分かりません。効率を求めることも勿論重要ですが、今与えられたことを一生懸命頑張ることが大事なのではないかと思います。

06

過去の理事長所信等を読ませて頂き、JCは単年度制ながらも代々の理事長で伝わっているものがあるように思えました。そういったものはありましたか。

青年会議所はその年の理事長が作っていくものです。自分で考えた事業や想いを引き継いでもらいたいとも思いますが、積み上げたものを壊してまた作っていくというJCだと思います。

07

これからのJCが果たすべき役割は何だとお考えですか？現役メンバーへのエールも同時にお願い致します。

それはみんなで考えて(笑)。  
とにかく失敗を恐れずに思いっきりやってください。「そんなことやるの？」というぐらい大きなことに青年らしい夢を描いて取り組んでもらいたいです。俺たちがこのまंचを変えていくというような勘違いをするぐらい、小さくまとまるな！

08

人口流出全国ワースト2の我がまち静岡の現状をどうお考えですか？

これはJayceeが一番考えなければならない、切実な問題ではないでしょうか。JCが民間と行政とどのように一緒に取り組むか、その中でJCがどのように関わることができるかを考えなくてはなりません。ただし、究極的には経済人として我々の事業を拡大し、雇用を創出すべきだと思います。

09

静岡JCの歴史沿革の中に記すとした時、2007年度のキーワードとして「飛躍」「絆の強化」「誇りあるまち」等があると思いますが、杉山シニアにとってその年をひと言で表すならどのような言葉を選びますか？

理事長所信に「もう一年初年度」と記しました。  
初年度を否定することになりませんか？という指摘もありましたが、自分自身を奮い立たせるために、もう一年新しいLOM作りに全力を尽くすという思いを込めました。

10

初年度に比べ、対外的な事業が多く感じます。初年度は内側の結束、2007年は対外的に新生静岡JCをアピールする年だと感じ取れます。実際はいかがでしたでしょうか？

もっと対外的なことに取り組むべきでしたが、青少年事業で精いっぱいでした。  
現在でもJCとしての対外的事業と言えば青少年事業となりますが、街づくりにこそ取り組んでいただきたいと思っています。それこそがJCの役割であり存在意義です。

11

未来学園が2つの委員会で1000万円強の予算となっています。多額の予算を用いた想いを教えてください。

とうかい号の主幹もあり、なかなかまちづくり事業に取り組めなかったのが、せめて青少年事業で大きな事業を行いたかったのです。  
大変な事業を行ってこそ、合併直後のLOMが一つになると考えました。結局は内向きな結束という事を一番考えていたのかもしれませんが、また、清水・駿河JCには卒業生を送るという文化がなかったが、2007年から卒業例会という名前にして定着する結果となりました。

## 取材全体としてのまとめ・感想

初年度創り上げてきたものを更に進化、発展させていくために、改めて様々な角度から見直しを行うといった非常に重要な年でした。更なる飛躍の為に、会員同士の絆をさらに深める対内事業や、効果的な運営システムの構築など活性化した組織実現を目指した1年となりました。LOMを1つにまとめる活動に合わせて、静岡市民も対外的事業も多く、極めて激動な1年だった印象を受けました。

## 取材前と後での特に気付いた点

現在も継続している対外事業（未来学園、市民討議会、とうかい号等）の基盤は2年目に構築されたものであると感じました。2年目の様々な事業の成功が現在の静岡JCの礎になっていることを認識することで、10周年に向けた会員意識向上に必ず繋がると確信できました。